大正５年５月５日木藤精一郎創立

やまゆき会会報

令和元年１０月号

例　会　報　告

読図例会　：　逢ヶ山・五助山（六甲山地）　上級Ｃ

８月４日（日）　快晴　担当：西山弘一　参加者８名

今日の大阪の最高気温予測は 37 度で、朝から太陽が照りつける中、8 名が神鉄有馬口駅に参集した。今回は「道迷いをしない読図実践編」をテーマに、五助山の道迷いしやすい難度の高いコースを走破する山行である。

まず、駅前の駅舎の日陰でコース詳細の説明と、「道迷いしない」為の予定コースの地形図への書き込み、迷いやすいポイントと現在地確認に絶好のポイントを地形図上で見つけ出し記入し、特に道迷いの恐れがある五助山の尾根線の地形図の拡大版を配布した。ストレッチ体操後、気温の上昇に備え体力を温存するために、歩行速度はゆっくりで 30 分を目安に水分補給の小休憩を入れることを説明後出発した。

有馬口駅からの緩やかな谷道から、逢ヶ山へ斜面道・尾根道の急登を汗をかきながらゆっくりしたペースで登る。それでも 2 名の方がペースにのれず、ペースを落として様子を見ながら、逢ヶ山(722.1m)へ到着。暑さで体力の消耗が激しい為、昼食時間は特に取らず、小まめな行動食をとるようにする旨を説明し、差し入れの「白玉」と「きゅうりの浅漬け」を頂いた。

ここからは高尾山(739m)を過ぎ、湯槽谷山からの尾根に合流し、番匠屋畑尾根道へとアップダウンが続くが、2 名の方のペースが上がらず、1 名には汗の量が多くみられたことと足のつり等が発生した為、これ以上の山行は危険と判断し、体調不良の二人はロープウェイで下山いただくことにした。

残りの 6 名で番匠屋畑尾根のアップダウンを進み、ガーデンテラスでのトイレ休憩をはさみ、五助山への尾根への分岐に到着した。分岐には「左への道は迷い易く危険です」の道標がある。その道へ行くのだが、人が入っていないのか笹が胸の高さまで伸び放題で足元が全く見えない。笹を払いながら一歩一歩足場を確保しながら慎重に歩く。そして出発時に記入していた迷い易い尾根の分岐を、ひとつひとつ地形図とコンパスで確認しながら五助山を目指す。五助山(636.6m)で記念撮影し、悪路を慎重に下って五助堰堤の上流の谷道に無事到着した。ここから阪急御影駅まではまだ 1 時間以上かかるが、体力の消耗が激しい為、途中の御影駅とバス停の分岐（御影駅まで 2.6Km）で解散とした。途中で別れた 2 名の方も無事下山したが、リタイア者が出てしまった猛暑下の夏(8　月)の今回のコース設定には課題を残す山行となった。

コースタイム

有馬口駅(9:00-9:35)～逢ヶ山(11:10-11:20)～高尾山(12:00-12:10)～752.1m(13:00-13:05)～極楽茶屋跡(14:05-14:10)～五助山分岐(14:30)～五助山　(15:35-15:40)～御影駅分岐で解散(16:45)

六甲山地：　樫ヶ峰(457m)　　入門C

8 月 4 日(日)晴れ　担当:中川輝夫　参加者 15 名

梅雨明け後の酷暑(猛暑)で天気予報では最高気温 36 度となっていたが、16人の方々が暑さをものともせず、阪急今津線逆瀬川駅バス停に参集。(但し集合時刻に遅れた体験参加者 1 名が、次のバスに乗車されるとのこと、原田会長と事務局の疋田さんがバス停にて待機。)下車した阪急バス宝塚西高校前のバス停は狭いので、近くの木陰で出席者の点呼、ストレッチを実施。遅れて来た方とも合流できたので、体験参加のもうお一方を紹介した。本日のコースの説明と入山準備後出発。雲一つないカンカン照りの下のスタートだったが、コースのほとんどが樹林の下、日陰コースで皆さんに安心していただいた。しかし、熱中症対策として、15 分毎の水分補給と休憩をすることにした。急勾配の階段登山道開始後まもなく、参加者 1 名が体調不良となった。登山可能か本人に確認後不可とのこと、付き添いを付け下山してもらうことになった。(体調不良下山者は不参加とし、付き添い者は参加とした。)登山開始後 15 分で 1 回目の水分補給と休憩を行った。登山道は比較的木陰だったが、猛暑は避けがたく汗だくの休憩となった。3 回目の休憩になると、北側は六甲山東尾根、南側は甲山、北山、大阪平野の展望のきく尾根となった。4 回目の休憩後まもなく、樫ヶ峰頂上に到着した。木々に覆われ、展望はなかったが、昼食とした。昼食後、救助訓練を実施した(救助訓練の流れに従い)。全員の記念撮影後、本日一番の眺めの良い、痩せ尾根の「馬の背」を注意しながら通過。間もなく小笠峰到着、水分補給と休憩実施。ここから急勾配の下山となることを参加者に注意喚起後、小笠峠到着。大谷乗越への舗装道路をしばらく歩き、エデンの園への下山道に入り、木陰道を 15 分毎、水分補給、休憩を行い、阪急バスエデンの園バス停に到着。猛暑の中の登山、参加者に感謝して、解散とした。

コースタイム

阪急逆瀬川駅バス停(9:58)＝宝塚西高校前バス停(10:10)～樫ヶ峰登山道入り口(10:20-10:50)～樫ヶ峰・昼食(11:50-12:20)～救助訓練(12:20-12:35)～小笠峰(13:10-13:15)～小笠峠(13:35-13:45)～エデンの園バス停着(14:30)

夏季公開ハイク　六甲山地：石楠花谷　　中級 C

8 月 11 日(日)　曇り　担当:北川隆史　参加者 15 名

夏季の公開ハイクは登山経験者を対象とした中級レベルの山行で、平成 27 年に初めての試みとして実施して以来、今回で 5 年目となった。問い合わせはあったものの、残念ながら一般の参加者は得られなかった。とはいえ、14 名もの会員の参加を得て、気を取り直して神鉄有

馬線大池駅を出発。地獄谷の河原に降りてスパッツ装着など谷歩きの準備をする。

石楠花谷が地獄谷からの沢に合流するところを渡渉して石楠花谷左岸の細道に入る。倒木の多い林道を辿り、石楠花谷堰堤を過ぎた所から沢に下り、少し遡行すると釜滝である。二段の立派な滝で深い甌穴があるので釜滝と呼ばれている。集合写真を撮り、甌穴を上から眺めてから林道に戻る。

第４堰堤上部で小休止。この堰堤の河原で谷が左右に分かれる。ハイキング道は左俣を行く。沢沿いの細道を登っていくと、再び沢が分かれるが、左の谷が本谷だ。堰堤を越えた河原で昼食とする。ここからは少々ハードなコースとなり、４～5mの滝を3つほど巻いて登っていくと源頭部となり、ようやく地獄谷西尾根道に到着する。

一息ついてから尾根道を少し登るとダイアモンドポイントに到着、集合写真を撮る。山の日のイベントでトレイルランが行われていて、ランナーが次つぎに走ってくる中を出発し、全山縦走路を目指して南に進む。

全山縦走路を辿り、車道から脇道に入って穂高湖に立ち寄ってみると、山の日のイベントのピクニック客で湖畔が埋まっていた。杣谷峠のトイレの前にトレランのためのドリンクなどの補給所が設営され、ここも人だかりがしていた。

完全に日陰になっている杣谷道を下り、中ほどにある寒滝という 20m ほどの大きな滝に立ち寄る。滝の水を手に受けてみるとなんとなくぬるいように感じ、気温の高さを再認識する。

長峰堰堤下で舗装路に出た所で解散とし、三々五々阪急神戸線六甲駅に向かった。谷道が大半だったとはいえ、とんでもない酷暑の中、参加者の皆さまたいへんお疲れ様でした。

コースタイム

大池駅(9:25)～石楠花谷出合(9:50-10:00)～釜滝(10:20-10:30)～第４堰堤(11:05-11:10)～左俣本谷の堰堤(11:35-12:10)～ダイアモンドポイント(13:00-13:10)～杣谷峠(13:58-14:10)～寒滝(14:35-14:40)～長峰堰堤(15:40)

飛騨山脈：　鹿島槍ヶ岳(2889.2m)　上級Ｃ

8 月 11 日(日)～14 日(水)　担当:CL 塚田廣行　SL 藤堂尚久　参加者4名

(此度は山行リーダー　塚田、下記・報告文作成　横山　として実施)

今回は恒例の藤堂百名山シリーズ 20 座目を岩のエキスパート塚田氏が例会委員としての初陣を飾る。目指すは「後立山連峰の盟主、美しい双耳峰と吊尾根の鹿島槍」。「鹿島槍は私の大好きな山である。その品のいい美しさは見倦(アキ)ることがない。」(深田久弥著　日本百名山)

8月11日(日) 22:30 梅田発「さわやか信州号」栂池高原行乗車。

8月12日(月) 晴れ(ガスの行き来多し)

6時10分 扇沢バス停着(1407m)、高原の爽やか感なく朝から蒸し暑い。黒四ダム破採帯よりの引水をボトルに満して出発。駐車場で体操後車道を下り柏原新道ゲート(1335m)を通過、最初は紅葉坂の急登。水場なし、花も少ない針葉樹林帯を大汗をかきながらの登りで、2200m付近から崩落地帯を左トラバース。間もなく両サイドにお花畑が広がる階段斜面をひと登りで種池山荘(2451m)到着。道中「下山者」の多いことに驚く(後で判明※)。昼食後、爺が岳3峰を越え(南、中央は登頂、北は黒部側を巻く)、約 200m降下後若干上り返して冷池山荘(2410m)着。その時間にして夕食は 18 時からの 2 回戦回しとされ、一瞬、一番の心配だったお盆の大混雑不安に脅えるも、布団は各自 1 枚確保と一安心。夜行バスの疲れか早くも 18 時 30 分頃から順次就寝。消灯 20 時 15 分。※昨夜は今シーズン最多の約 200 名宿泊。今夜は空きも。花はハクサンフウロ、ウサギギク、トウヤクリンドウ、マツムシソウ、アキノキリンソウ、キヌガサソウ、コバイケイソウ、イワギキョウ、コマクサ、他多数。樹木ではブナは少なく、ダケカンバも 2100m付近に少し見られた。動物は冷池手前のハイマツ帯で猿の親子。雷鳥には遭遇出来ず。鳥はホシガラス他。

コースタイム(最初のスタート以外は到着時間。含途中休憩)
扇沢バス停(6:50)～登山口(7:10)～種池山荘(11:12-11:57)～冷池山荘(14:20)

8月13日(火) 快晴

戸隠連峰よりご来光を仰ぎ、5時の朝食後スタート。余分な荷物は小屋に預けてサブザックの軽荷で快晴の稜線歩きが始まる。今日は涼しく爽快。すぐ上のテント場からいきなり息をのむ絶景が現る。勿論、毛勝三山を露払い、別山を太刀持ちに従えたような「雪と岩の殿堂、北の俊英」剱岳の美しくも、力強い姿である。三の窓と小窓の2つの巨大な雪渓が朝日に輝く。立山三山も負けてはいないが、剱のこの角度からは(室堂・別山側からの真っ黒な岩の鎧姿と違って)カッコ良さが際立っている。今回のハイライトの光景である。この後、布引岳(2683m)を巻いて、ついに南峰(最高峰 2889.2m)に登頂。山頂は意外に平坦で広い。北は白馬、東北に妙高、東に戸隠、南東に八ケ岳、南は南アから前穂北尾根、槍。さらに西に向けば鷲羽、薬師、そして立山、剱。差し詰め「百名山オールスターキャスト」のミニ勢揃いはまさに壮観。南

峰から足を伸ばし北峰へ。途中、八峰キレット分岐でリュックをデポして北峰登頂(2842m)。(南峰直下は激下りの難路。ロープ・鎖なし。今後の方はヘルメット着用を。)

以降は往路を戻って、冷池山荘に戻り、昼食。フル装備を担いで種池山荘着。夕食 17 時、31 人部屋も空き散見。深夜強風で何度も目が覚める。尚、これら 2 つの山荘は「同一経営」のため、メニュー、食器、寝具類他ほぼ同じ。飲料水は宿泊者 1Lまで無料。トイレもまずまずで洋式もありご安心を。

コースタイム

冷池山荘(5:50)～鹿島槍南峰(7:45)～北峰(8:35)～南峰(9:18)～冷池山荘(10:57)～種池山荘(13:55)

8 月 14 日(水) 霧

5 時の朝食後下山開始。風は収まるも霧で視界不良。登頂果たし全員足取りも軽く、コースタイム 3 時間を休み込で 2 時間 31 分のハイ・ペース。途中の道標は「鉄砲坂、モミジ沢、水平道、ケルン、八ツ見ベンチ等」。初回登山者には意味不明？「愛宕山のように何分の何のような表示があれば便利」と言う安直さに甘える新参者に、すかさず大先輩からの「地形図・等高線・コンパスを駆使して自分で判断じゃ！」のキツーイご指導。「やまゆき会上級」は甘くないですよ。皆さん勉強しましょうね。真夏の日帰りハイクでも長袖・長ズボン・重装備が基本。(根拠あり。)これぞ安全第一の老舗山岳会の掟。そして扇沢バス停に全員揃って元気に帰還。フィナーレ無事解散となる。

コースタイム

種池山荘(5:50)～登山口(8:21)～扇沢バス停(8:31)

<u>丹生山系： 鳴川 沢歩き</u> 初級 C

8 月 18 日(日) 晴 担当:北川隆史 参加者6名

丹生山系を北流する谷と言えば屏風谷と鳴川だが、垂直の滝が多く沢登りの対象となる屏風谷に比べると、平流で優しい感じの鳴川は沢沿いのハイキングに適している。今回は鳴川の右俣を暑い最中に沢靴でじゃぶじゃぶと歩いてみようという趣向である。

三田駅からバスと徒歩で約 1 時間半かけて鳴川のほとりに到着し、沢靴などの装備を整え、くるぶしほどの平流を渡って山道に入

る。少し進むと鳴川の左右両俣の出合で、右俣に入渓する。踏み跡やテープはあるが、ほとんど人が入っていない感じである。沢のほとんどは日陰で、猛暑のこの日も暑さはさほど気にならない。

時々現れる小滝やナメ床など沢靴が役に立つ個所は積極的に沢身に入って、へつりを楽しんだりする。変哲もない流れが続くと、岸に上がって歩き易そうなところを選んで歩く。1 時間強で林道の橋の下に着く。いったん林道に上がって、地形図で現在地を確認する。橋から再び沢を遡行していくと、まもなくこの谷の核心部と言える滝場だ。深い淵をへつり、なるい滝を登ると、平らな岩場の洲に出る。ここで昼食とする。集合写真を撮り、出発する。

小滝を越えてさらに遡行するとまもなく支谷が左に分かれる所に着く。支谷に入らず本谷をつめて志久道に脱出するのが順当なコース取りだが、今回は左支谷を詰めて花折山の東に出ることにする。谷はやや狭くなって歩き難く、1時間近くかかって花折山の北を巻く丹生山系縦走路に出る。縦走路は谷の源流を東に登っていき、舗装路に至る。

花折の肩と呼ばれるこの辺りは、南側が柏尾谷の支流の源頭部で、支流の東側の尾根に小道があり柏尾谷に下降できる。柏尾谷は滝が多く沢登りの好適地で、コースに加えていた。ゴルフ場沿いに舗装路を進むが、柏尾谷に下る道が見つからず、そのまま車道を下って、谷上に出ることにプランを変更する。40 分ほど歩いて、谷上駅にて解散した。

コースタイム

JR宝塚線三田駅(8:10)＝神姫バス弓の木バス停(8:45-8:55)～鳴川出合(9:30-9:53)～鳴川右俣(10:00)～林道出合(11:20)～昼食(11:35-12:10)～左支谷出合(13:00)～花折山東の肩(13:50)～鰻ノ手池・着替え(15:10-15:25)～神鉄・北神急行線谷上駅(16:10)

恒例 新入会員歓迎会　木陰でバーベキュー大会　北摂：武庫川支流

8 月 25 日(日)　晴れ　担当:運営委員会　参加者 48 名

9 時 30 分、準備担当者が三々五々、BBQ の資材(道具一式、燃料、食材、水)を会場まで運び込み、準備開始です。まずは沢を渡渉するための飛び石を置く。BBQ 用の石釜を設営、炭火おこし、食材の下ごしらえ、調理、分配、と進めていきます。

11 時前には参加者が集まり、5つのグループに分かれて、BBQ 大会の開始です。肉や色とりどりの野菜など、網で焼いては舌鼓を打ちます。お酒や食材、お菓子の差し入れもいただき、さらには冷やしソーメンがふるまわれて、お腹いっぱいになったところで全員集合です。本日の招待ゲストの新入会員 8 名を紹介、「ふるさと」や「雪山賛歌」を合唱(指揮者と同性の新入会員 1 名によるオカリナの伴奏)、集合写真撮

影と続きます。

再び各グループの石釜に戻り、まだまだ楽しい時間は続きます。スイカが運ばれ、差し入れの手作りのお菓子をいただきます。

13 時 45 分に廃線跡ハイキングの参加者が集合、準備ののち出発となります。残留組は後始末です。資材と分別したゴミは、手分けして持ち帰ります。石釜は火が燃え尽きて灰になってから、石積みを崩して元に戻します。15 時前には荷物をまとめて河原を後にしました。

今年の BBQ 大会も多くの会員が参加され、おおいに盛り上がりました。前日から食材の買い出し、調理、運搬に携わられた皆さま、当日は朝早くから、資材の運搬・搬入・準備と休む間もなく働いて頂いた皆さま、本当にお疲れ様でした。

JR 福知山線　廃線敷ハイキング　　入門 A

8 月 25 日（日） 曇時々晴れ 担当：河田嘉直 参加者 15 名

毎年恒例の BBQ 大会も無事に終わり、元気な老若男女 15 名が武庫川沿い廃線敷ハイキングに参加してくれました。今年は例年に比べ炎天下でなく、曇り空で少し蒸し暑いがハイキング日和です。出発前にトイレタイムも取りいざ出発。

最初の短い長尾山第 3 トンネル（91m）入口付近で懐中電灯の確認をし、暗闇の中足元に注意しながらゆっくりと歩きました。長尾山第 1 トンネル（306m）を抜けると直ぐに第 2 武庫川橋梁が見える。橋の上で武庫川の激流を眼下に眺め景観を楽しみながらゆっくり歩きました。又、しばらく歩くと本日の廃線敷最長トンネル北山第 2 トンネル（413m）に入り、中は少しヒンヤリとした空気が漂い暫しの清涼感を楽しむことが出来ました。最後の北山第 1 トンネル（319m）を抜け岩山をバックに集合写真を撮り、暫く回りの景観を眺めて小休止。

BBQ 後で皆さん疲れていましたが、最後迄頑張り全員 15 名無事に神姫バス木ノ元バス停にたどり着きここで解散しました。蒸し暑い中皆様お疲れ様でした。

コースタイム

BBQ 会場（13:50）～桜の園（14:10）～第 2 武庫川橋梁（14:25）～北山第 2 トンネル出口（14:55-15:05）～北山第 1 トンネル出口（15:15-15:30）～木ノ元バス停（15:50）